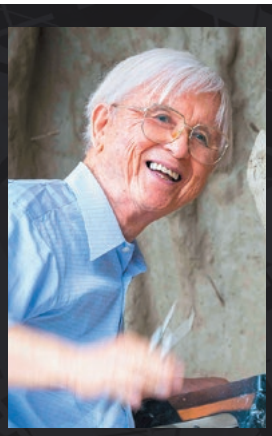

亀山市名誉市民

彫刻家
中村 晋也
Shinya Nakamura

作品紹介
ふるさとあい
Vol.114

「ウルスラ伝（聖女ウルスラ）」

平成5（1993）年

乙女の守護聖人として、今日でも崇拝されている聖女ウルスラ（Saint Ursula）は、キリスト教の殉教者の物語として、中世ヨーロッパで好まれ、絵画作品にもいくつか散見されます。

マントを広げて中央に立つ王女ウルスラが、マントの中で身を寄せ合う従者の乙女たちを庇護している図像は、ウルスラ伝説の最も典型的な場面で、異教徒に屈しない強い信仰心を表しています。

中村は取材のためにヨーロッパ各地の美術館や教会を訪ね歩き、リューベンスなど画家たちのウルスラ作品を研究し、自身のウルスラ像を追求しました。

（高さ）230cm ×（幅）155cm ×（奥行）30cm
東京都愛国学園

特別協力　公益財団法人 中村晋也美術館　https://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/

まちかど キラリ

ハロウィンが育む地域のつながり

昼生地区の子どもたち

子どもたちの発案で、ハロウィンに合わせて自分の好きなキャラクターなどに扮して昼生地区を歩こうと、4年前から仮装を開始。2年前からごみ袋とトングを持って清掃活動をしながら地区内を回る。今年は、3歳から中学1年生までの20人が参加。

きっかけは4年前に「テレビで見た渋谷のハロウィンのような仮装をやってみたい！」と草川怜那さん（昼生小学校5年生）が父親に相談し、家族と同級生4人で楽しんだことでした。「楽しかった！また来年もしようね♪」と盛り上がり、翌年、他の友だちを誘うと、「面白そう！やってみたい！」と話が広がり、年々参加する人数が増えました。

毎年、思い思いの衣装を身にまとった子どもたちが地区内の家を回り、お菓子をもらいながらハロウィンを楽しむ中、「せっかく歩くなら、ごみ拾いをしよう。まちもきれいになって一石二鳥！」と思い付き、昨年から保護者の協力のもと子どもたちの「ハロウィンごみ拾い」が始まりました。草川さんは、「ゾンビたちがごみを拾っていたらきっと面白い。地区内はきれいだと思っていたけど、ごみを探しながら歩いてみると、たばこの吸い殻などが落ちていました。ごみは捨てないでほしい」と話します。

ハロウィンの活動が始まって今年で5年。地域や近所のお店の人からは、「回るならうちにも寄ってほしい。お菓子を渡したい」など子どもたちとの交流を望む声が増えています。「仮装やごみ拾いをすることで、地域の人とつながっていくことがうれしい。子どもから高齢者まで、誰でも参加できる名物イベントになってほしい。目指すは参加者100人！」。子どもたちの活動は、これからも続きます。